

Anatomic characterization of the suprascapular artery with special references to the origin and course

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2024-06-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 森, 三郎 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2003680

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2873 号

Anatomic characterization of the suprascapular artery with special references to the origin and course

肩甲上動脈の解剖学的特徴、特にその起始と走行について

森 三郎（もり さぶろう）

博士（医学）

論文審査結果の要旨

本論文は、肩甲上動脈における変異を含む解剖学的特徴を明らかにした研究であり、さらに本動脈の変異が成り立つ解剖学的要因についても明らかにしている。

【新規性、創造性】 肩甲上動脈領域の筋膜について検討し、肩甲上動脈の起始部と通過部の解剖学的関係が、腕神経叢、鎖骨下動脈遠位部、腋窩動脈を一括して取り囲む結合組織層（腕神経叢鞘 brachial sheath）によって規定されている可能性を初めて見出した。

【方法・研究倫理】 35 体の防腐処理した日本人遺体（女性 19 体、男性 16 体）から 66 側（右 32 体、左 34 体）の頸部を解剖し、肩甲上動脈の形態を調査した。

【学術的意義】 肩甲上動脈の起始と通過点には明瞭な解剖学的関連が認められた。つまり、肩甲上動脈の起始が腕神経叢鞘で囲まれる空間の外にある場合には、上肩甲横靭帯の上方を通り、肩甲上動脈の起始点が腕神経叢鞘で囲まれる空間内にある場合には、肩甲上動脈は上肩甲横靭帯の下方（肩甲切痕）を通過していた。

【考察・今後の発展】 肩甲上動脈の起始と通過点（上肩甲横靭帯）に見られる明確な解剖学的な対応関係が、腕神経叢鞘によって規定される可能性が初めて示唆され、本動脈の解剖学的特徴と変異の成り立ちがより明確になった。

よって、本論文は博士（医学）の学位を授与するに値するものと判定した。